

令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立朝日小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。
平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和4年4月19日（火）

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	・小学校調査は、国語、算数、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	68.1	70.4	69.0
我が国の言語文化に関する事項	1	85.5	80.7	77.9
話すこと・聞くこと	2	65.3	68.1	66.2
書くこと	2	54.0	49.7	48.5
読むこと	4	75.4	68.2	66.6

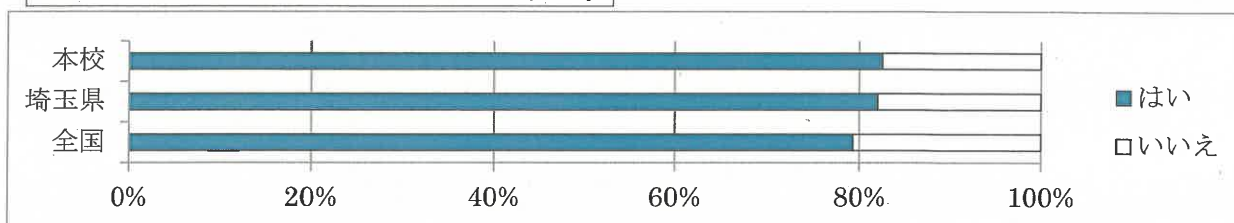
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	67.2	69.9	69.8
図形	4	64.1	64.5	64.0
変化と関係	4	57.7	51.8	51.3
データの活用	3	69.4	69.2	68.7

理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	50.0	52.5	51.6
「粒子」を柱とする領域	5	54.5	61.6	60.4
「生命」を柱とする領域	5	77.4	76.7	75.0
「地球」を柱とする領域	5	65.8	65.3	64.6

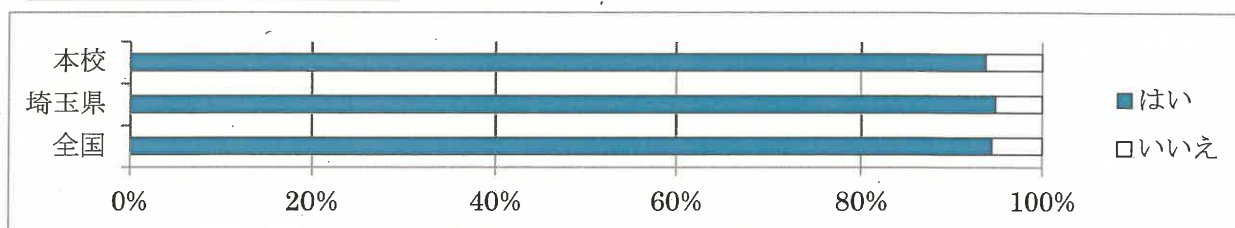
＜児童への質問紙調査＞

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

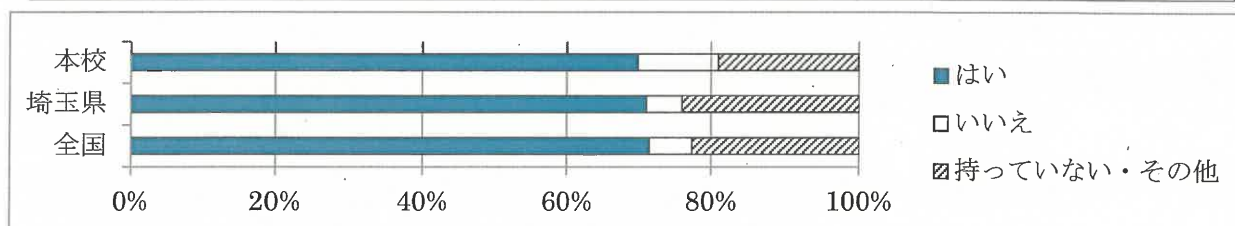
自分には良いところがあると思いますか。



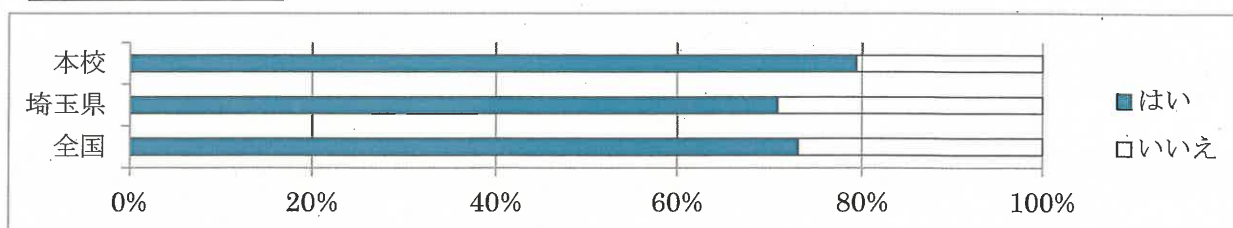
朝食を毎日食べていますか。



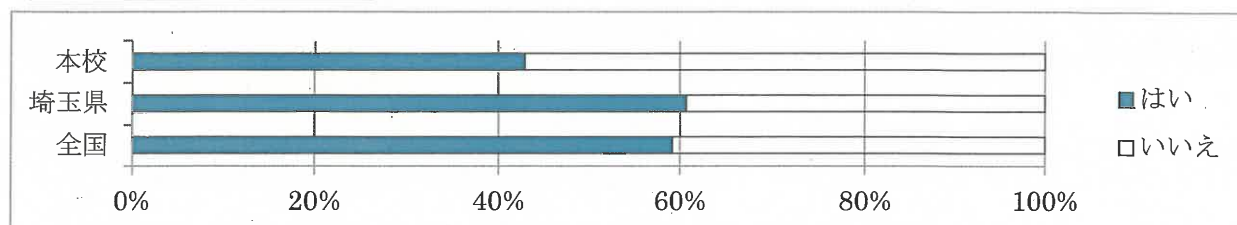
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



読書は好きですか。



国語の学習は好きですか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

- 「読むこと」の正答率が高まっていることから、昨年度の結果を受けて問題文や課題文の文章を、主語や述語などに気を付けて読むことを指導してきたことで、読む力が身に付いてきていることが分かります。
- 「言語文化」についての正答率が高く、日頃の書字指導から、相手の読みやすさを考えて書くことが身に付いてきていることが分かります。
- ◆「書くこと」の正答率が高いものの、他の問題に比べ、記述式の問題に対する無回答の割合が高くなる傾向にあります。

以上のことから、主語や述語に気を付けた読み取り指導を、国語を中心にその他の教科でも行うことは、「読むこと」の向上につながっていることが分かります。一方で、前述の国語に関する学習意欲のグラフから、学習意欲と無回答率との関連が伺えます。今後の学習指導の中で、国語の意欲の向上を図っていきます。

【問題（例）】

問題 1 四

別掲の「話し合いの様子の一部」から言葉や分を取り上げ、「ごみ拾い」か「花植え」のどちらかの立場に立って問題点についての解決方法を考え、50字以上80字以内で書く問題。

正答例

花植えがよいと思います。花の世話を続けることは大変ですが、公園を華やかな感じにしたいので、みんなで当番を決めてけい続して世話をすればよいと思います。(74字)

本校正答率 43.5%
全国正答率 47.7%

<分析>

文章を「書く」問題ですが、内容は「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうか」をみる問題です。資料を読み、自分がどの立場で答えるかを選んで、問題を解決するための方法をまとめることが求められています。

誤答として、「立場が書かれていない」「50字未満」「解決方法が書かれていない」などが挙げられます。無回答は4.8%です。資料に示された「公園をきれいにするためのアイデア」を読み取り、必要な言葉や文を取り上げて書くことが必要です。

【問題（例）】

問題 3 三

問題文中のひらがなを漢字に直す問題。

- ア 学級の様子をろくがして・・・
- イ できなかったことをはんせい・・・
- ウ したしむことができる・・・

正答

- ア 録画
- イ 反省
- ウ 親（しむ）

本校正答率 ア 69.4%イ 46.8%ウ 64.5%
全国正答率 ア 65.2%イ 58.7%ウ 67.1%

<分析>

学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題です。問題となる箇所の前後の文脈から、正しい漢字を選択し、書き表すことが求められています。

ウのみ無回答率が14.5%と突出して高くなっています。問題文では「した」だけに下線があることから、「した」のみ漢字に直そうとして「したしむ」という言葉を読み取れていないことが考えられます。問題文全体を読まず、問題を解くために必要な箇所だけを読んでいる様子がうかがえます。問題の箇所を含む一文を読み、問われていることを正しく理解することが必要です。

<算 数>

【領域別】

- 「変化と関係」では、全国や県と比較して正答率が高くなっています。評価の観点から見ても、「思考・判断・表現」の観点で全国56.7%、県57.6%なのに対し、本校では59.2%と高く、算数に関する思考力の高まりが分かります。
- ◆「数と計算」については、全国や県の正答率よりも低くなっています。以下の問題例にも記載しますが、特に「倍数・約数」の問題に課題があることが分かります。また、「図形」については全国の正答率よりも若干高い数値は出ているものの、県の正答率を下回る結果となっていることから、図形の学習にも重点を置く必要があります。

以上のことから、過去数年の「学び合い」の授業実践により、児童の思考力が確実に高まってきていることが分かります。この思考力の高まりを生かし、「整数の性質」について思考する学習から実感を伴った理解を生み出していきます。また、学習内容のより一層の定着を図るための反復学習の時間や機会を確保していきます。

【問題（例）】

問題 1 (2)

ケーキセットを販売するにあたり、セットの値段を比較するために、各セットに入っているケーキの個数の最小公倍数を求める問題。

正答

14の倍数…14, 28, 42, 56, 70…

21の倍数…21, 42, 63, 84…

答え 42

本校正答率 56.5%

全国正答率 72.2%

<分析>

問題文には「14と21の最小公倍数を求めましょう。」と示されており、正しく二つの数の最小公倍数を求めることができるかを見る問題です。誤答として「 $(14 \times 21 =) 294$ 」や「(約数) 7」などが挙げられます。「2と3」のように単純に2つの数の乗数で求められる数ではないため、「倍数、公倍数、最小公倍数」とは何かという正しい理解と、それを求めるための技能が必要です。

また、問題のように「一方の数をそろえて比較する」考え方は、人口密度やはやさといった「単位量当たりの大きさ」に繋がっていく重要な内容になります。確実に身に付けられるようにしていきます。

【問題（例）】

問題 3 (4)

1年生と6年生の交流会で、1年生のやりたい遊びを優先するために、1年生は1人10点×希望者数、6年生は1人5点書ける希望者数で点数を計算し、一つの遊びが1年生と6年生であわせて何点になっているかを求める問題。

正答

かくれんぼは1年生14人、6年生8人が希望している。

式 $10 \times 14 + 5 \times 8$

$= 140 + 40$

$= 180$ 答え 180点

本校正答率 64.5%

全国正答率 67.7%

<分析>

4年生で学習した、四則計算の混合した問題の理解を見る問題です。

希望する遊び(交流会)

(人)

	輪投げ	かくれんぼ	なぞなぞ	縄跳び	紙飛行機	合計
1年	15	14	10	7	4	50
6年	4	8	10	18	7	47

全国・県の無回答率が8%だったのに対し、本校の無回答率は11.3%でした。上の表の見方が分からず、立式できなかったことが考えられます。また、四則計算は計算の優先順位も大切です。しっかりと身に付けられるようにしていきます。

<理 科>

【領域別】

○「生命」「地球」に関する領域の学習については、全国や県と同等の正答率です。特に生命に関する問題では、問題を解決するために必要な視点を基に、問題解決までの道筋を構想して自分の考えをもったり、その考えを記述したりすることができるかどうかを見る問題になっているので、思考力の高まりがうかがえます。

◆「エネルギー」「粒子」に関する領域の学習では、実験道具の名称や使い方についての問題や、問題文から実験場面を想像して答える問題で間違いや無回答が見られました。実験道具に関する基礎的な知識や、他者(問題の登場人物)の視点から実験結果を分析して解釈する力が課題となっています。

以上のことから、身近な生き物や自分の実体験など児童の興味・関心の高い内容について、知識の定着や思考力の高さがうかがえます。日頃の学習活動の中で、児童の興味・関心を引き出して実感を伴う理解を育んでいくことが重要となります。

【問題(例)】

問題 2 4

水で作った氷は水に浮き、砂糖水で作った氷はしずんだ。この実験結果を受けて「他の水よう液をこおらせたものでも試してみたい」と考えた児童 A が、どのような学習課題を立てたかを考え、記述する問題。

正答 「ほかの水よう液をこおらせたものは、水にしずむのだろうか。」

本校正答率 30.6%

全国正答率 39.3%

自然の事物・現象から得た情報を、他者(問題文の登場人物)の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもってその内容を記述することができるかを見る問題です。得た情報や気付きを基に差異点や共通点を捉え、それらの性質や規則性を把握することや、観察方法や実験方法を見通しながら分析し、解釈することが求められます。

無回答率は9.7%と高く、答え方に悩んで回答できないままにした児童が多かったことが伺えます。

【問題(例)】

問題 3 1

右の図を見て、かべにかけたま
とに、今立っ
ている位置から鏡
の向きを変えるだけで三角形の光を当
てることができる人を選択して答える
問題。

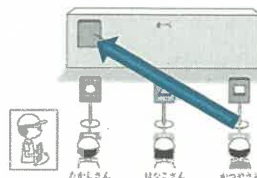
正答 かつやさん

本校正答率 14.5%

全国正答率 27.8%

光の性質を基に、反射させた日光の進み方について答える問題です。日光が直進することの理解を見えています。問題文と絵が示す状況が理解できず、誤答となってしまう様子が見られます。

①立ち位置は変わらない、②鏡の向きだけ変える、③三角形の光を当てるという3つの条件を満たしていない回答として「たかし(まとの正面)」「はなこ(三角形のまとの前にいる)」といった誤答が見られます。



光が直進する性質から上の図のように考えます。

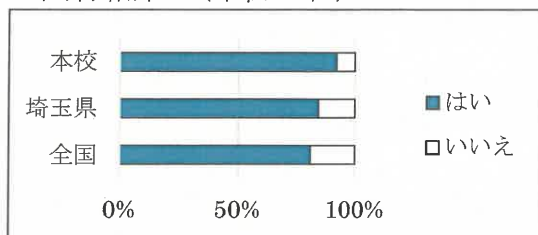
<質問紙調査から>

【(例1)】

<質問>

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

<回答結果> (単位：%)



	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	活動がない
本校	52.4	39.7	4.8	3.2	0.0
埼玉県	41.5	42.0	12.3	3.2	0.8
全国	37.7	42.4	14.8	4.0	0.9

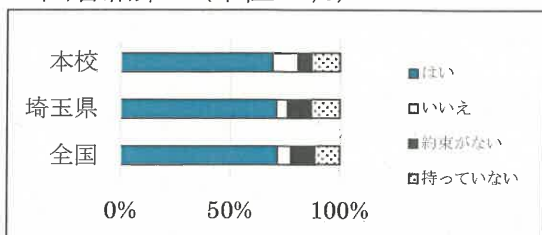
「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した割合が、全国・県の割合よりも高くなっています。本校では3年間、「互いの思いを認め合い自信をもって表現する」ことをテーマに特別活動の研究に取り組んできました。その中で、児童の話合い活動の充実のための手立てとして、「自分の気持ちを伝える多様な方法の提示」「話合い活動をととした『話す・聞く・認める』の積み重ね」を繰り返してきました。3年間の積み重ねの結果、自分の気持ちを表現したり、友達の意見を聞いて考えたりできるようになってきている様子が伺えます。

【(例2)】

<質問>

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

<回答結果> (単位：%)



	守っている	だいたい守っている	あまり守っていない	守っていない	約束がない	持っていない
本校	34.9	33.3	9.5	1.6	6.3	12.7
埼玉県	40.5	30.6	4.0	0.9	10.9	13.1
全国	39.4	32.1	4.8	1.1	11.2	11.4

「守っている」「だいたい守っている」の割合が、全国・県と比べ少し低くなっています。一方で「約束がない」という家庭の割合が比較的少ないことから、各ご家庭で約束を設けて使用されていることが分かります。

別の質問では、1日当たりにゲームをする時間が「4時間以上…約21%」「3～4時間…約13%」「2～3時間…約21%」「1～2時間…約24%」と長くなる傾向にあることから、ゲームの時間についての約束が守れないことが多いことが伺えます。使用についてのマナーや、ネットトラブルに巻き込まれないためのリテラシーについて、学校でも指導していきます。

＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

＜教科に関する調査＞ は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑＝80%以上、↑↑↑↑＝70%以上80%未満、↑↑↑＝60%以上70%未満、↑↑＝50%以上60%未満、↑＝50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	73.5	70.2	15	65.2	64.3	15	65.9	66.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	3	68.7	59.0	2	60.0	59.1	2	74.2	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	5	44.2	40.5	5	51.5	49.5	5	70.3	65.3
読むこと	4	72.7	63.1	8	52.8	44.5	8	58.1	57.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	67.8	64.0	13	64.4	62.2	13	73.1	64.2
図形	6	58.1	51.4	8	62.0	56.7	8	57.7	56.7
4年測定 5, 6年変化と関係	6	69.7	61.8	5	73.3	74.1	5	68.3	65.0
データの活用	5	81.8	75.7	6	68.4	64.0	6	59.2	50.3
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上

(%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	89.1 92.4	91.9 86.7	93.8 95.0
	② 授業の開始時刻	87.8 86.4	90.9 86.7	94.2 95.0
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	79.6 86.4	82.1 77.3	85.5 90.0
	④ 整理整頓	76.2 74.2	76.7 81.3	79.9 80.0
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.8 83.3	75.6 69.3	77.7 68.3
	⑥ 返事	85.5 93.9	85.6 86.7	86.1 88.3
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	82.3 90.9	85.1 88.0	87.7 85.0
	⑧ やさしい言葉づかい	81.8 90.9	83.2 88.0	83.5 85.0
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.3 84.8	84.6 82.7	87.2 81.7
	⑩ 話を聞き発表する	75.1 90.9	74.5 81.3	74.9 76.7
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	81.4 89.4	81.9 82.7	83.2 83.3
	⑫ 掃除・美化活動	89.2 97.0	87.6 86.7	86.5 86.7

本校の学力向上の取組

☆1 主体的な学びの充実

- (1) 学習課題の提示からまとめ・振り返りまでの流れを示し、児童が主体的に目的意識をもって活動できる授業をします。
- (2) 授業の流れや内容がわかり、学習の終わりに振り返りができる板書をします。
- (3) 授業では、自分で問題の解き方を考える自力解決の時間を大切にします。

☆2 学習形態の工夫

- (1) 一人、ペア学習、グループ学習、一斉学習等の形態で児童同士が意見交流する時間を確保します。自分と友達の考え方の比較を通し、いろいろな考え方があることに気づき、学習の幅を広げられるようにします。
- (2) ティームティーチング指導や少人数指導を積極的に行い、一人一人により細やかな支援ができるようにします。

☆3 個に応じた指導の充実

- (1) 単元開始前にレディネステスト（算数）を行い児童の理解度を確認し、学年や単元・課題に応じた習熟度別指導、少人数指導、ティームティーチング指導の実施に活用します。
- (2) 教育指導補助員による学習サポート
理解が十分にできていない児童や、技術が十分に身につけていない児童をサポートし、学習意欲の向上を目指します。
- (3) デジタルドリルの活用
今年度より導入したデジタルドリルを活用し、児童が自己調整しながら学習を主体的に進めていく「個別最適な学び」を促し、自身の個性や能力を生かして学びを深めていけるよう指導していきます。

■4 言語活動の充実

- (1) 授業の中で、自分の考えの理由や根拠を明らかにして筋道立てて答えたり、ノートに書いたりできるようにします。
- (2) 様々な授業形態の中で、児童同士が意見交流する時間を大切にします。

■5 学習に対する態度の育成

- (1) 学習に集中して取り組むための約束として、「授業中の姿勢」「指名されたときの返事」「発表するときの声の大きさ」等の基本的なことを確実にできるようにしていきます。
- (2) ICT 機器を活用して児童の疑問や探究心を湧き立たせるような教材の活用や指導を大切にします。

授業以外の取組

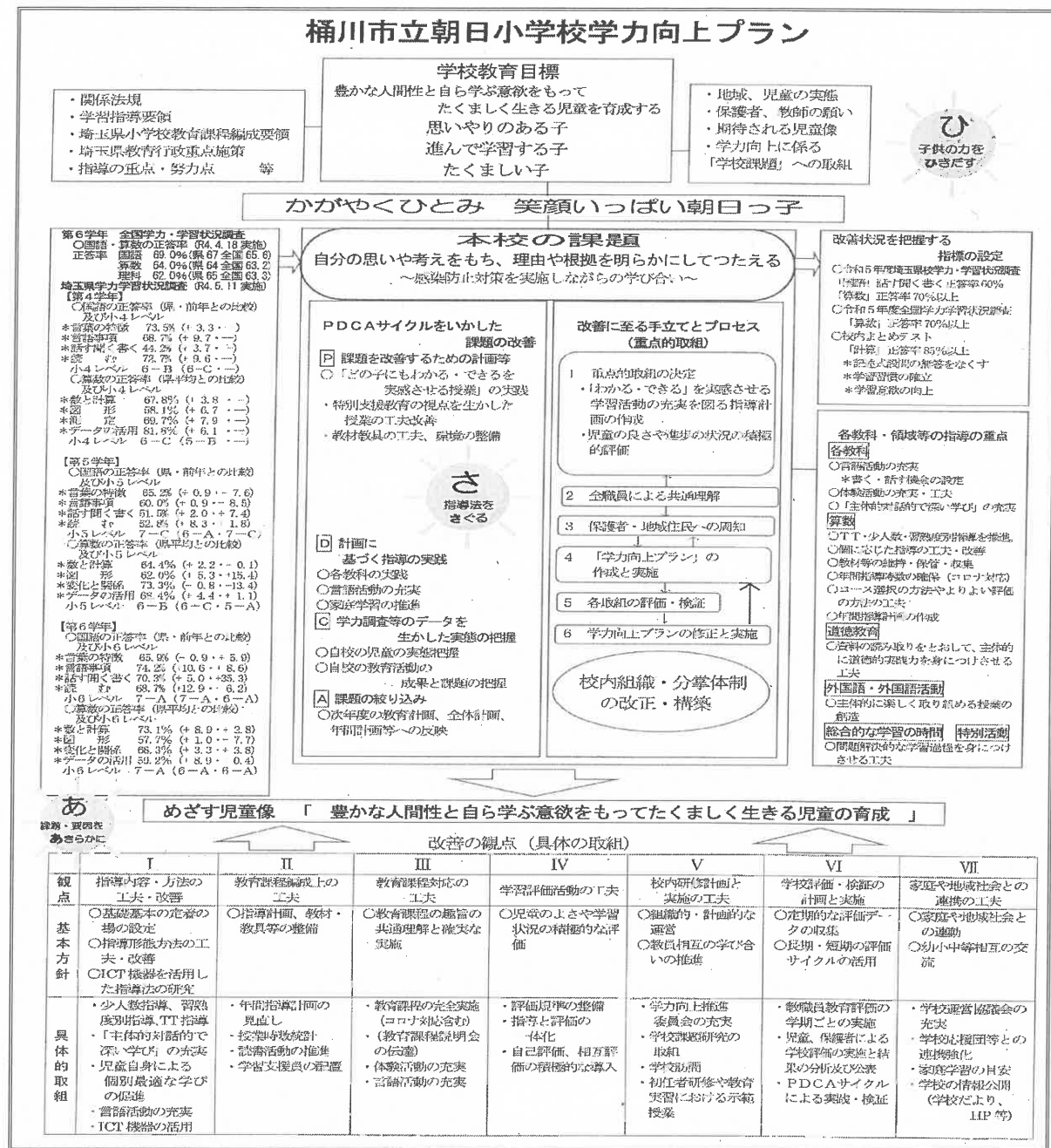
☆1 家庭学習の充実

- (1) 漢字・計算の繰り返しにより基礎学力の定着を図ります。
- (2) 毎日の宿題や自主学習を家庭との協力で進め、家庭学習の習慣化により、基礎学力の定着を図ります。
- (3) 帰宅後のテレビ、ゲーム、スマートフォン等を控え、読書や会話の時間を大切にする働きかけをします。

■2 業前学習・補充学習の充実

- (1) 月曜日の朝読書で読書に楽しみ、本に親しむ時間を確保し、読解力の向上を目指します。
- (2) 長期休業を利用しデジタルドリルや県のふり返しシート等の活用に取り組みます。

本校の学力向上プラン



保護者・地域の皆様へ

- ・日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。chromebook の活用について、本校 HP に掲載した規則に則って運用してまいります。持ち帰った際の使用について、よろしくお願いいたします。
- ・学校や家庭など、様々な生活場面で ICT 機器を使用する機会が増えています。眼等に過度な負担がかからないよう chromebook を使用する時間について、学校でも調整していきますので、ご家庭でも引き続き、使用の時間や約束についてご相談いただければと思います。
- ・見守りと励まし、称賛の声掛けを今後もよろしくお願いいたします。